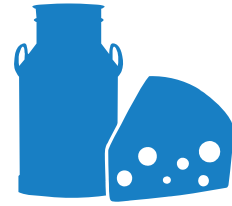


牛乳・乳製品



◆飼養動向

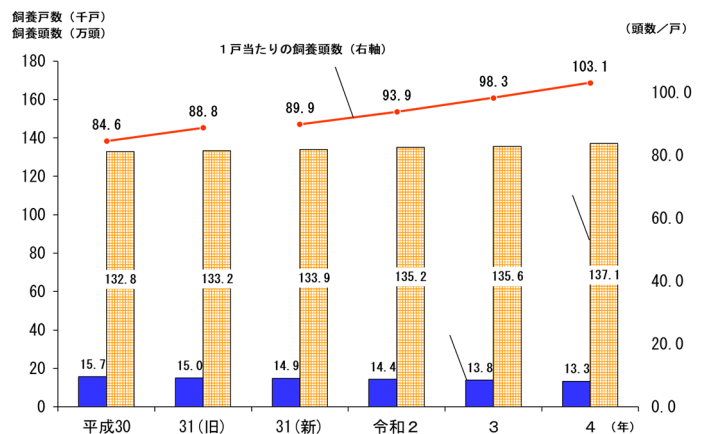
4年2月現在の乳用牛飼養頭数、前年比1.1%増

乳用牛の飼養戸数は、酪農家の高齢化や後継者不足などにより離農が進んでいることから、令和4年では、前年を500戸下回る1万3300戸（前年比3.6%減）とやや減少した（図1）。

一方で、飼養頭数は、性判別精液の活用などによる後継牛確保の取り組みの進展などから、4年では137万1000頭（同1.1%増）と、前年をわずかに上回った。

この結果、同年の1戸当たり飼養頭数は、103.1頭（同4.9%増）と前年からやや増加し、はじめて100頭を超えた。

図1 乳用牛の飼養戸数および飼養頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

注1：各年2月1日現在。

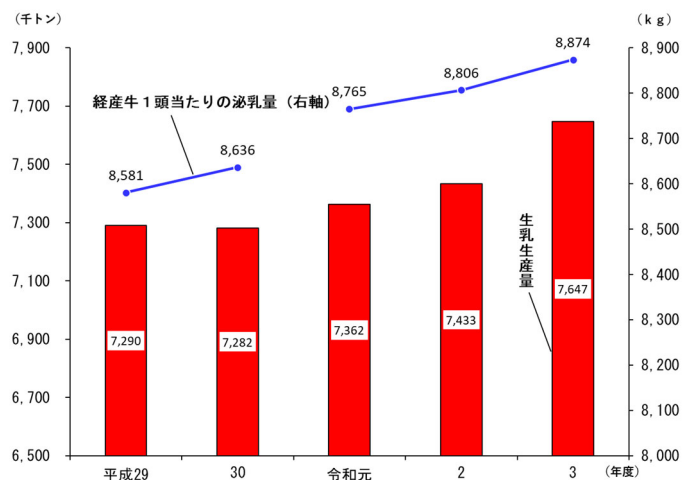
注2：平成31年（旧）までは従来実施してきた飼養者を対象とした統計調査。平成31年（新）以降は牛個体識別全国データベースなどの行政記録情報や関係統計により集計した加工統計であり、統計手法が異なる。

◆生乳生産

3年度の生乳生産量、前年度比2.9%増

令和3年度の全国の生乳生産量は、飼養頭数や1戸当たりの泌乳量の増加などにより、764万6519トン（前年度比2.9%増）と3年連続で前年度をわずかに上回った（図2）。経産牛1頭当たりの泌乳量は微増傾向で推移しており、3年度は8874キログラム（同0.8%増）となった。

図2 生乳生産量・経産牛1頭当たりの泌乳量の推移（全国）



資料：農林水産省「畜産統計」、「牛乳乳製品統計」

注1：経産牛1頭当たりの泌乳量は、畜産統計および牛乳乳製品統計のデータを基に機構にて算出。

注2：畜産統計について、令和元年から統計手法が変更されたため、経産牛1頭当たりの泌乳量については令和元年度以降の数値は、平成30年度までの数値と接続しない。

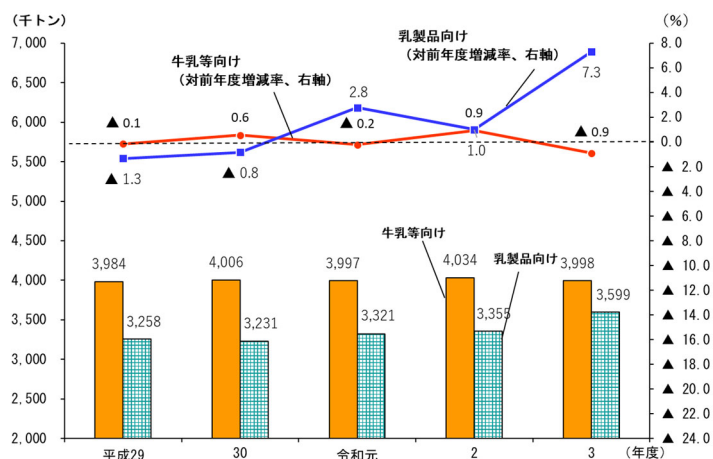
◆用途別生乳処理量

3年度の乳製品向け処理量、前年度比7.3%増

令和3年度の用途別生乳処理量を仕向け先別に見ると、牛乳等向けは399万7801トン（前年度比0.9%減）と前年度をわずかに下回った（図3）。このため、3年度の生乳生産量に占める牛乳等向け処理量の割合を表す市乳化率は、52.3%と前年度より2.0ポイント低下した。

一方、乳製品向け処理量は359万9290トン（同7.3%増）と前年度をかなりの程度上回った。生乳生産量が増加した一方で、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響などにより、牛乳等向け処理量が減少したことから、長期保存可能な脱脂粉乳およびバターなどへの仕向け量が増加したとみられる。

図3 用途別生乳処理量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

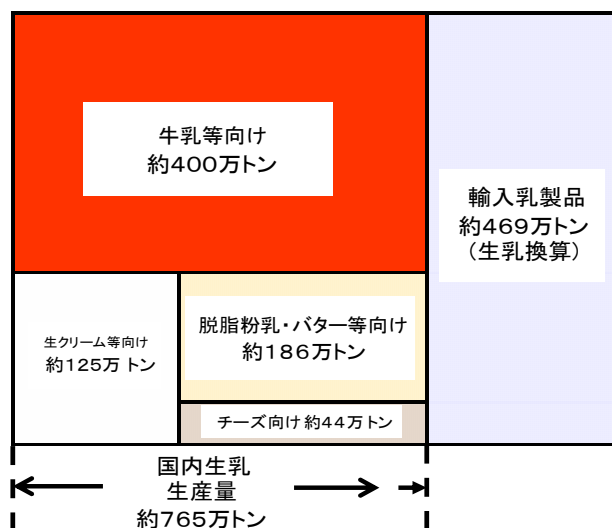
◆乳製品向け処理量

3年度の脱脂粉乳・バター等向け生乳処理量、前年度比10.0%増

令和3年度の生乳の需給構造を見ると、生乳生産量は約765万トンと前年を上回った（図4）。このうち乳製品向け処理量を区別に見ると、脱脂粉乳・バター等向けは、COVID-19の影響などから約186万トン（前年度比10.0%増）と前年度をかなりの程度上回った。また、チーズ向けは約44万トン（同5.7%増）と前年度をやや上回り、生クリーム等向けは、約125万トン（同4.3%増）と前年度をやや上回った。

また、輸入乳製品（生乳換算）は、約469万トンと2年連続で減少した。

図4 生乳の需給構造の概要（令和3年度）



資料：農林水産省「畜産・酪農をめぐる情勢」

注1：国内生乳生産量の中には、このほか、他の用途向け（約5万トン）や自家消費等（約5万トン）の生乳がある。

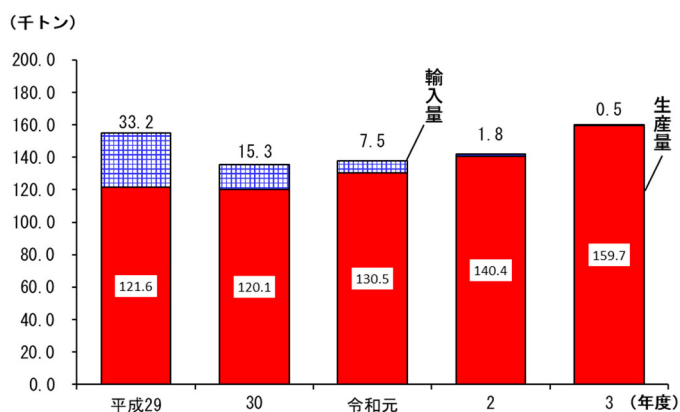
注2：生クリーム等向けは、生クリーム・脱脂濃縮乳・濃縮乳に仕向けられたものをいう。

◆ 脱脂粉乳

3年度の民間期末在庫量、前年度比20.7%増

令和3年度の脱脂粉乳の生産量は、15万9710トン（前年度比13.7%増）と元年度から3年連続で増加している。一方で、同年度の輸入量（機構輸入分のみ）は、496トン（同71.8%減）と大幅に減少した（図5）。

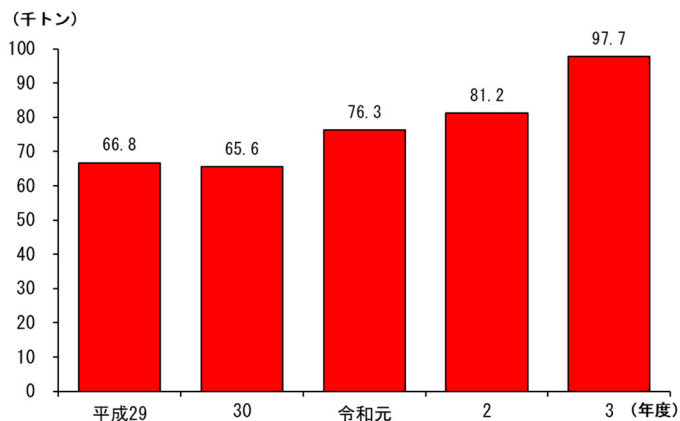
図5 脱脂粉乳の生産量・輸入量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構調べ
注：輸入量は機構輸入分のみ。

こうした中、3年度の推定出回り量は、14万3847トン（同4.5%増）と前年度からやや増加したものの、生産量の増加などの影響もあり、3年度の民間期末在庫量は、9万7692トン（同20.7%増）と前年度を大幅に上回った（図6）。

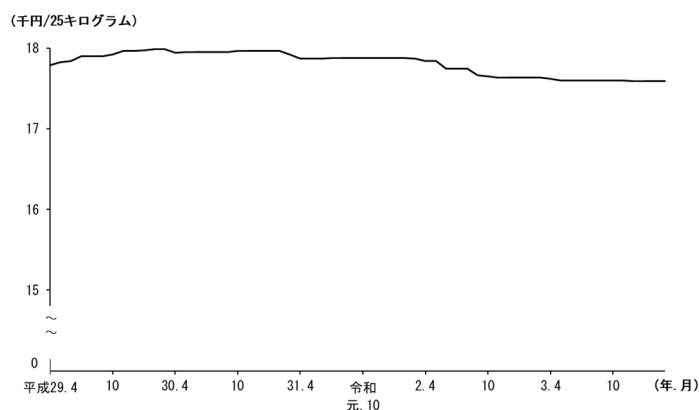
図6 脱脂粉乳の民間期末在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構調べ

令和3年度の脱脂粉乳の大口需要者価格は、25キログラム当たり平均1万7598円（同0.6%安）とわずかに低下した（図7）。

図7 脱脂粉乳の大口需要者価格の推移



資料：農林水産省「大口需要者向け価格の動向」
注：消費税を含む。

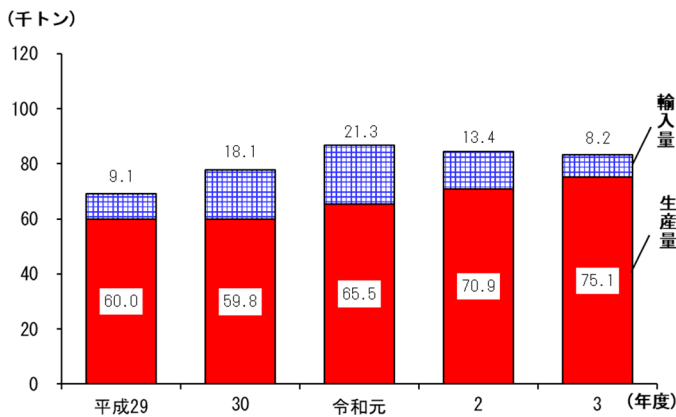
◆バター

3年度の生産量、前年度比5.8%増

令和3年度のバターの生産量は、7万5085トン（前年度比5.8%増）と前年度をやや上回った。一方、同年度の輸入量（機構輸入分のみ）は、8185トン（同38.7%減）と大幅に減少した（図8）。

3年度のバターの大口需要者価格は、1キログラム当たり平均1388円（同1.4%安）とわずかに低下した（図10）。

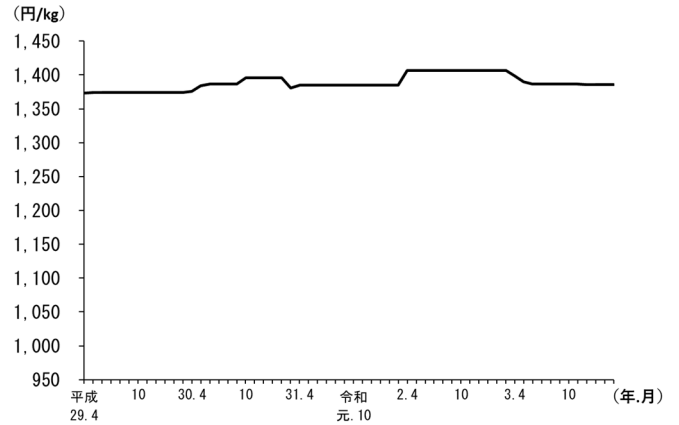
図8 バターの生産量・輸入量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」
注：輸入量は機構輸入分のみ。

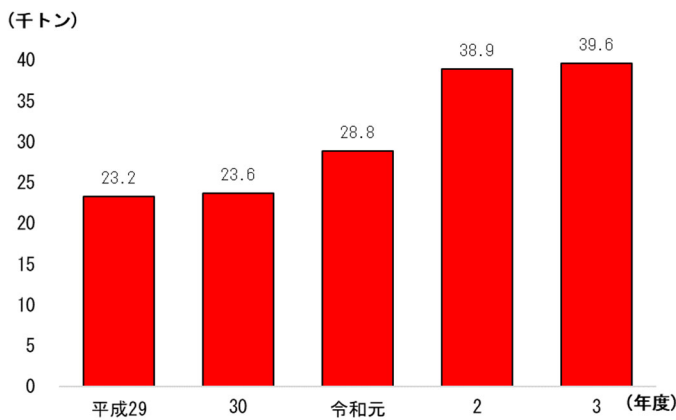
こうした中、同年度の推定出回り量は8万2836トン（同10.8%増）とかなりの程度増加したものの、生産量の増加などの影響もあり、同年度の民間期末在庫量は3万9574トン（同1.8%増）とわずかに増加した（図9）。

図10 バターの大口需要者価格の推移



資料：農林水産省「大口需要者向け価格の動向」
注：消費税を含む。

図9 バターの民間期末在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構調べ

◆チーズ

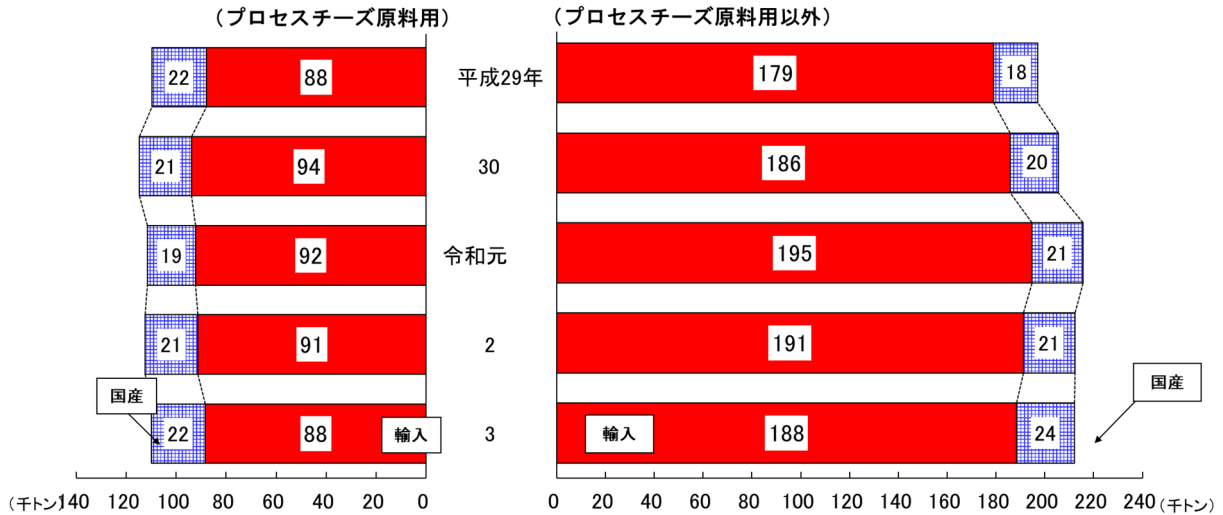
3年度の総消費量、前年度比0.3%減

チーズの生産量・輸入量

令和3年度のナチュラルチーズの輸入量(プロセスチーズ原料用+プロセスチーズ原料用以外)は、27万6646トン(前年度比2.1%減)とわずかに減少した。内訳を見ると、プロセスチーズ原料用は8万8304トン(同3.3%減)とやや、プロセスチーズ原料用以外は18万8342トン(同1.5%減)とわずかに減少した(図11)。

国産ナチュラルチーズの生産量(プロセスチーズ原料用+プロセスチーズ原料用以外)は、4万5341トン(同7.0%増)とかなりの程度増加した。内訳を見ると、プロセスチーズ原料用が2万1585トン(同2.3%増)とわずかに、プロセスチーズ原料用以外が2万3756トン(同11.8%増)とかなり大きく、増加した。

図11 ナチュラルチーズの生産量・輸入量の推移



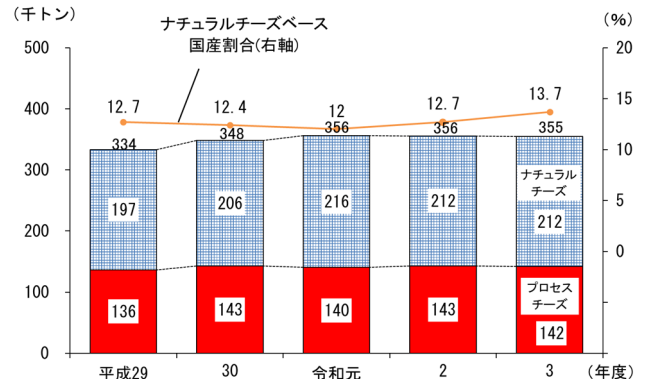
資料：農林水産省「チーズの需給表」
注：プロセスチーズ原料用以外とは、直接消費用、業務用、その他原料用として使用された量。

チーズの総消費量

令和3年度のナチュラルチーズ消費量は、21万2098トン(前年度比0.1%減)となった。また、プロセスチーズ消費量は、14万2419トン(同0.4%減)とわずかに減少した(図12)。

この結果、ナチュラルチーズとプロセスチーズを合わせた総消費量は35万4517トン(同0.3%減)と前年度並みとなった。

図12 チーズの総消費量と国産割合の推移



資料：農林水産省「チーズの需給表」

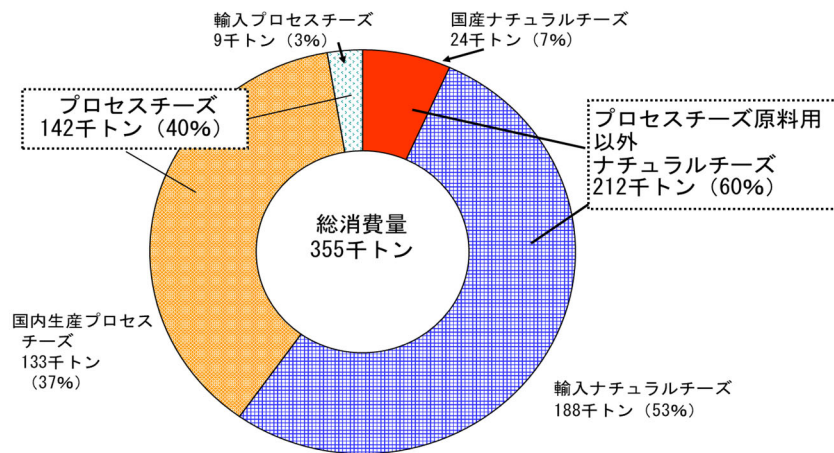
チーズ総消費量の内訳

令和3年度のチーズ総消費量に占める国産チーズの割合は、国内生産量が増加した一方、輸入が減少したことから13.7%（ナチュラルチーズベースに換算した場合の自給率）となり、前年度より1.0ポイント上昇した。

うち、プロセスチーズ原料用以外のナチュラルチーズについては、国産の生産量が2万3756トン（前年度比11.8%増）と前年度をかなり大きく上回り、輸入

量は18万8342トン（同1.5%減）と前年度をわずかに下回ったことから、国産の割合は11.2%と前年度より1.2ポイント上昇した（図12）。また、プロセスチーズ原料用のナチュラルチーズについても、国産の生産量が2万1585トン（同2.3%増）と前年度をわずかに上回り、輸入量が8万8304トン（同3.3%減）と前年度をやや下回ったことから、国産の割合は19.6%と前年度より0.8ポイント上昇した。

図13 令和3年度のチーズ総消費量の内訳



資料：農林水産省「チーズの需給表」
 注1：プロセスチーズ原料以外とは、直接消費量、業務用、その他の原料用として使用されたもの。
 注2：四捨五入の関係で、必ずしも合計値が文中の数字と一致しない。

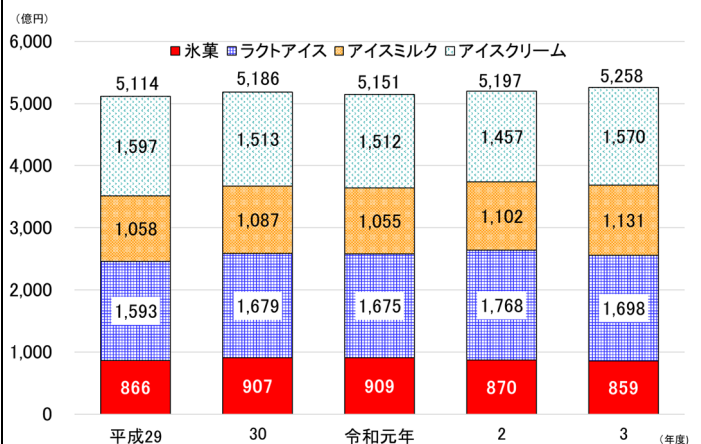
◆アイスクリーム

3年度の輸入量、前年度比17.0%増

令和3年度のアイスクリームの市場規模は、販売金額が、5258億円（前年度比1.2%増）となり、わずかに前年度を上回った（図14）。

需給動向を見ると、令和3年度の国産アイスクリーム生産量は、14万47キロリットル（同8.2%増）とかなりの程度、輸入量は、5952トン（同17.0%増）と大幅に増加した。

図14 種類別アイスクリームの市場規模の推移



資料：一般社団法人 日本アイスクリーム協会「2019年度 アイスクリーム類及び氷菓 販売実績」、農林水産省「牛乳乳製品統計」、財務省「貿易統計」